



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町 4 - 3 - 8
担当
TEL (03) 3270-2701
FAX (03) 3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2024/06/26
SDS整理番号 20124250

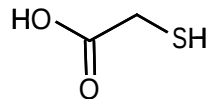
製品等のコード : 2012-4250

製品等の名称 : メルカプト酢酸 (チオグリコール酸)

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
鉄の比色分析、重金属の除去剤、安定剤、酸化・老化防止剤、
塩化ビニル・ゴムの安定剤、脱毛剤、パーマメントウェービング、写真薬、
医薬中間物、動物繊維の加工、鉄の比色分析、重金属の除去、ポリマー改質、
化粧品原料 など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
引火性液体 : 区分に該当しない
自然発火性液体 : 区分に該当しない

健康に対する有害性
急性毒性 (経口) : 区分3
急性毒性 (経皮) : 区分3
急性毒性 (吸入: ミスト) : 区分4
皮膚腐食性/刺激性 : 区分1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1
皮膚感受性 : 区分1
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分1 (中枢神経系、呼吸器、全身毒性)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 区分1 (血液系、肝臓、腎臓)

環境に対する有害性
水生環境有害性 短期(急性) : 区分3

注意喚起語: 危険

危険有害性情報
飲み込むと有毒 (経口)
皮膚に接触すると有毒 (経皮)
吸入すると有害 (ミスト)
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
中枢神経系、呼吸器、全身毒性の障害
長期又は反復暴露による血液系、肝臓、腎臓の障害のおそれ
水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

ミスト、蒸気などを吸入しないこと。

取扱い後は、よく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせない。直ちに医師に連絡すること。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと、取り除くこと。

皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。

眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

気分が悪い時は、医師に連絡する。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。

汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	：	化学物質
化学名	：	メルカプト酢酸
	（別名）	チオグリコール酸、2-メルカプト酢酸、2-チオグリコール酸、チオバン酸、TG酸
	（英名）	Mercaptoacetic acid（EC名称）、Thioglycolic acid、2-Mercaptoacetic acid、2-Thioglycolic acid、Thiovanic acid、Acetic acid、mercapto-、Acetic acid、2-mercapto-（TSCA名称）
成分及び含有量	：	メルカプト酢酸、95.0%以上
化学式・構造式	：	C2H4O2S、HSCH2COOH、構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	：	92.12
官報公示整理番号	化審法	（2）-1355
	安衛法	公表化学物質（化審法番号を準用）
CAS No.	：	68-11-1
EC No.	：	200-677-4
韓国：化学物質の登録及び評価等	：	に関する法律 / 化学物質管理法
	：	既存化学物質（KE-33786）
危険有害成分	：	メルカプト酢酸

4. 応急措置

吸入した場合	：	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	：	直ちに医師に連絡する。 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 速やかに、皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 洗浄開始が遅れたり、洗浄不十分の場合は、皮膚障害のおそれがある。 皮膚刺激又は発疹が生じた時は、医師の診察、手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	：	直ちに医師に連絡する。 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で上げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していて固着していなければ除去し、洗浄を続ける。 眼の洗浄が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。

- 飲み込んだ場合：眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の診断を受ける。
：直ちに医師に連絡する。
口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせてはいけない。
吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。
直に牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。
牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。
意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。
：気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状：
吸入：胃痙攣、灼熱感、咳、息苦しさ、息切れ、咽頭痛、肺水腫
皮膚：発赤、皮膚熱傷、激痛、水疱形成。経皮吸収性あり。
眼：発赤、痛み、角膜破壊、視力喪失、重度の熱傷
経口摂取：複痛、灼熱感、ショック、虚脱

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤：本製品は可燃性である。
粉末、二酸化炭素、泡（耐アルコール泡）、水噴霧
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤：棒状放水（本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある）
- 特有の危険有害性：引火点(126℃)以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法：火元への燃焼源を遮断する。
火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護：消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：
：漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
：漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
：皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
：風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。
：蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。
：密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項：河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
- 回収、中和：乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
：大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて密閉できる空容器に回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材：危険でなければ漏れを止める。
- 二次災害の防止策：事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
：周辺の発火源を速やかに取除く。
：排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策：裸火禁止。強力な酸化剤との接触禁止。
：ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
：指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。
：指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。
：指定数量の1/5以上、1未満（少量危険物）の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。
：指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。
：炎、火花または高温体との接触を避ける。

局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項	： 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 ： 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。 ： すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 ： 屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。 ： 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 ： 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの ： 取扱いをしてはならない。 ： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 ： 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避	： 炎、火花または高温体との接触を避ける。
保管 技術的対策	： 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。 ： 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の ： 軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。 ： 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な ： 傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。 ： 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
保管条件	： 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する。-禁煙。 ： 光のばく露や高温多湿を避けて保管する。 ： 容器を密閉して冷暗所に保管する。 ： 一定の場所を定めて、施錠して保管する。 ： 貯蔵する所には「火気厳禁」の表示を行う。 ： 貯蔵する所には、白地に赤枠、赤文字で「医薬用外劇物」の表示を行う。 ： 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質	： 強酸化剤（硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなど）
容器包装材料	： ガラスなど

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	： 設定されていない。
許容濃度（ばく露限界値、 日本産衛学会 ACGIH	： 生物学的ばく露指標）： ： 設定されていない。 ： TLV-TWA 1ppm（皮膚吸収あり）
設備対策	： この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置 ： する。 ： 取扱い場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	： 呼吸器保護具（酸性ガス用防毒マスク）を着用する。
手の保護具	： 保護手袋（ネオプレン製など）を着用する。
眼の保護具	： 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用 ： する。
皮膚及び身体の保護具	： 長袖作業衣を着用する。 ： 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 ： 取扱い後はよく手を洗う。 ： 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	： 粘ちような液体
色	： 無色
臭い	： 特異臭（強い不快な臭い）
pH	： 1.6（10%水溶液）
融点	： -16
凝固点	： データなし
沸点	： 120
引火点	： 126（開放式）
可燃性	： 可燃性
爆発範囲	： 下限 5.9vol% 上限 データなし
蒸気圧	： 1.3 kPa（18℃）
相対ガス密度（空気 = 1）	： 3.2（計算値）
20℃での蒸気/空気混合 気体の相対密度（空気 = 1）	： 1.00
密度又は相対密度	： データなし
比重	： 約1.3（20/4℃）
溶解度	： 水に混和しやすい（溶けやすい）。 ： エタノール、エーテル、ヘキサンに混和しやすい（溶けやすい）。
オクタノール/水分配係数	： log Pow = 0.09

発火点 : 350
分解温度 : データなし
粘度 : データなし
動粘度 : データなし
粒子特性 : データなし

GHS分類
引火性液体 : ICSC(2002)による引火点は126（開放式）であることから、
区分に該当しないとした。
自然発火性液体 : 発火点は350（ICSC,2002）であり、常温の空気と接触しても自然
発火しないことから、区分に該当しないとした。

10．安定性及び反応性

安定性（反応性・化学的安定性）

： 空気により徐々に変化（酸化）して、ジチオ二酢酸を生成する。
70-75%水溶液は、安定性がよい。
危険有害反応可能性 : 強酸化剤、アルカリ、有機化合物と反応する。
水蒸気又は水と接触すると、有毒で腐食性の水溶液を生じる。特に、鉄、
銅、マンガン、微量の重金属は触媒として作用し、この酸化過程を促進
する。
熱分解すると、有毒な硫黄酸化物、硫化水素が生成する。
スチール、ステンレス鋼、アルミニウムなどの多くの金属を腐食する。
避けるべき条件 : 日光、光、高熱、酸素(空気)、湿気、裸火、スパーク、静電気
混触危険物質 : 強酸化剤、強アルカリ剤、有機化合物、水
危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素、二酸化炭素、硫化水素、硫黄酸化物

11．有害性情報

急性毒性 : 経口 ラット LD50 = 73 mg/kg (SIDS (2010))
飲み込むと有毒（経口）（区分3）
経皮 ウサギ LD50 = 848 mg/kg (SIDS (2010))
皮膚に接触すると有毒（経皮）（区分3）
吸入（蒸気） 分類できない。
吸入（ミスト）ラット LC50(4時間) = 2.172 mg/L（雄）、1.098 mg/L（雌）
(SIDS (2010))
吸入すると有害（ミスト）（区分4）
皮膚腐食性/刺激性 : ウサギの皮膚に本物質の原液を適用した結果、5分以内に壊死がみられた
ことから、本物質は腐食性を持つと判断されている (SIDS (2010))。
ヒトでは、高濃度の本物質にばく露された結果、皮膚に第2 度の火傷を
引き起こしたとの報告や (NITE初期リスク評価書 (2008))、潰瘍、永続的
な瘢痕がみられたとの報告がある (NITE初期リスク評価書 (2008))。
以上の結果から区分1とした。
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷（区分1）
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : ウサギの眼に本物質を適用した結果、強度の結膜炎、角膜
混濁がみられ14日以内に回復性がみられなかったとの記載がある (ACGIH
(7th, 2001))。また、本物質は皮膚腐食性/刺激性で区分1に分類されて
いる。以上の結果から区分1とした。
重篤な眼の損傷（区分1）
呼吸器感受性 : 分類できない。
皮膚感受性 : ヒトにおいて本物質のパッチテストにより陽性反応がみられたとの報告が
複数ある (NITE初期リスク評価書 (2008))。一方、モルモットを用いた皮膚
感受性試験では陰性であったとの報告がある (SIDS (2010))。ヒトにおいて
陽性の報告が複数あることから区分1とした。
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ（区分1）
生殖細胞変異原性 : 区分に該当しない。
In vivoでは、マウス骨髄細胞の小核試験で陰性 (SIDS (2010))、in vitro
では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性で
ある (NITE初期リスク評価書 (2008)、SIDS (2010)、NTP DB)。
発がん性 : 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAAの国際
評価機関の報告がないため、分類できない。
生殖毒性 : 分類できない。
特定標的臓器毒性
(単回ばく露) : 本物質は気道刺激性がある (SIDS (2010))。ヒトにおいては、経路不明の
事故例で、急性肺水腫、肺傷害（出血性線維性気管支炎）、重度の乳酸血症、
腎不全、成人呼吸促迫症候群、肝不全、横紋筋融解からなる多臓器不全、
経口摂取又は経皮ばく露で、嚥下困難を伴う口腔、咽頭、食道粘膜の腐食、
吐き気・嘔吐を伴う胃痛、胃出血、頻脈、浅呼吸、乏尿、循環虚脱による
死亡、声門水腫による窒息死、その他、接触部位粘膜の潰瘍が報告されて
いる (NITE初期リスク評価書 (2008))。実験動物では、ラットの吸入ばく

露で、鼻刺激、呼吸困難、緩徐呼吸、努力呼吸、不規則呼吸、活動低下、無関心、振戦、麻痺、衰弱、反射消失、閉眼、不穏、屈曲姿勢、死亡例で肺のうっ血、ラットの経口投与で、喘ぎ呼吸、立毛、嗜眠、眼瞼下垂、衰弱、痙攣、マウスの経皮ばく露で振戦、痙攣がみられている（NITE初期リスク評価書（2008）、SIDS（2010）、ACGIH（7th, 2001））。これらの中枢神経系及び呼吸器への影響は区分1に相当する範囲の用量でみられた。以上より、区分1（中枢神経系、呼吸器、全身毒性）とした。中枢神経系、呼吸器、全身毒性の障害（区分1）

特定標的臓器毒性

（反復ばく露）：

ヒトでの反復ばく露影響に関する知見はない。実験動物を用いた試験では、本物質が腐食性を有するため、試験は本物質ナトリウム塩（CAS No.: 367-51-1）を用いて行われており、体内では本物質及びそのナトリウム塩はほぼ等価の毒性を示すものと考え、ナトリウム塩を用いた試験結果により分類を行うこととした。すなわち、ラットに本物質ナトリウム塩を13週間強制経口投与した試験において、最高用量の60 mg/kg/day（区分2に該当）で、血液系（総白血球数及びリンパ球の減少、赤血球数、ヘモグロビン濃度の軽度増加、凝固時間（PT）の延長など）、肝臓（重量増加、血清AST、ALT、LDHの上昇、門脈周囲肝細胞内の微小空胞化、単細胞壊死）、腎臓（血清尿素窒素及びクレアチニンの増加、近位尿細管の空胞化）への影響がみられた（SIDS（2010））。この他、脾臓、肝臓に髓外造血亢進、胸腺に皮質の萎縮、骨髄にM/E比（顆粒球系細胞数/赤血球系細胞数）の低下がみられた（SIDS（2010））が、これらは血液影響に関連した所見と考えられた。一方、ラット又はマウスに本物質ナトリウム塩を13週間経皮適用した試験では、いずれの動物種にも適用部皮膚への局所刺激性影響がみられた以外に、ほぼ区分2までの用量範囲（最高用量：ラットで180 mg/kg/day、マウスで360 mg/kg/day）で特定の標的臓器はなく（SIDS（2010））、経皮経路では概ね区分に該当しない相当と考えられた。以上より、区分2（血液系、肝臓、腎臓）に分類した。長期又は反復ばく露による血液系、肝臓、腎臓の障害のおそれ

誤えん有害性

：分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)：甲殻類（オオミジンコ）48時間EC50 = 35.8 mg/L
（環境省リスク評価第11巻，2013）

水生生物に有害（区分3）

水生環境有害性 長期(慢性)：区分に該当しない。

慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり（28日後の分解度：67%（SIDS，2010））、藻類（*Pseudokirchneriella subcapitata*）の72時間NOEC = 2.2 mg/L（NITE初期リスク評価書，2008）であることから、区分に該当しない。

残留性・分解性

：良分解性。BOD分解度 = 67%

生物蓄積性

：低濃縮性。Log Kow = 0.09

土壌中の移動性

：データなし

オゾン層への有害性

：本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

：関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（manifesto）を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
（参考）(1) 燃焼法
可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉（おが屑）等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラバー付き焼却炉の火室で焼却する。

(2) 活性汚泥法

生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。

汚染容器及び包装

：内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 153

国際規制

海上規制情報 (IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No. : 1940
Proper Shipping Name : THIOLGLYCOLIC ACID
Class : 8 (腐食性物質)
Sub risk : -
Packing Group : II
Marine Pollutant : No (非該当)
Limited Quantity : 1L

航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)

UN No. : 1940
Proper Shipping Name : Thioglycolic acid
Class : 8
Sub risk : -
Packing Group : II

国内規制

陸上規制情報 (毒劇法、消防法、道路法の規定に従う)

海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)

国連番号 : 1940
品名 : メルカプト酢酸
クラス : 8
副次危険 : -
容器等級 : II
海洋汚染物質 : 非該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当

少量危険物許容量 : 1L

航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)

国連番号 : 1940
品名 : メルカプト酢酸
クラス : 8
副次危険 : -
容器等級 : II
少量輸送許容物件 : 0.5L

特別の安全対策 : 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載する。
危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。
危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
重量物を上積みしない。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
車輛等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物
(政令番号 第602号「メルカプト酢酸」、対象重量%は 1)
名称等を通知すべき危険物及び有害物
(政令番号 第602号「メルカプト酢酸」、対象重量%は 0.1)
(令別表第9)
(注) 令和7年4月1日以降、政令番号 : 規則別表第2の第2197号に変更

皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の
使用義務物質「皮膚刺激性有害物質、皮膚吸収性有害物質」
「メルカプト酢酸、対象重量%は 1」
(安衛則第594条の2)

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) : 非該当 (2023年 (R5年) 4月1日施行の法改正にも非該当)

消防法	: 危険物第4類引火性液体、第三石油類 水溶性液体 指定数量4000L 危険等級 (法第2条第7項危険物別表第1)
毒物及び劇物取締法	: 劇物「メルカプト酢酸及びこれを含有する製剤」、包装等級 (2019/1/1 施行)
船舶安全法	: 腐食性物質 (危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	: 腐食性物質 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
海洋汚染防止法	: 非該当
輸出入貿易管理令	: キャッチオール規制 (別表第1の16項) HSコード : 2930.90 第29類 有機化学品 ・輸出統計番号 (2024年1月版) : 2930.90-900 「有機硫黄化合物 - その他のもの - その他のもの」 ・輸入統計番号 (2024年4月1日版) : 2930.90-990 「有機硫黄化合物 - 2 その他のもの : その他のもの」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項 :

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施設、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM	
GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。